

(電子メール施行)
農技1064号
平成29年4月25日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成29年度病害虫発生予報第1号を発表します。

平成29年度病害虫発生予報 第1号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	苗立枯病	平年並	平年並
	ばか苗病	平年並	—
	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	やや多	平年並
ムギ	赤さび病	平年並	少
	赤かび病	平年並	—
	アブラムシ類	平年並	やや少
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	平年並	平年並
	モンシロチョウ	平年並	平年並
	コナガ	平年並	やや少
	ヨトウガ	やや少	少
	アブラムシ類	やや少	少
春レタス	菌核病	平年並	平年並
	灰色かび病	やや少	少
	アブラムシ類	やや少	少
タマネギ	べと病	平年並～やや多	平年並
	細菌性病害	平年並	やや少
	灰色腐敗病	平年並	平年並
	ネギアザミウマ	平年並	やや少
イチゴ	うどんこ病	平年並	やや少
	灰色かび病	平年並	平年並
	炭疽病	やや少	少
	ハダニ	やや多	平年並
	アブラムシ類	やや多	平年並
	アザミウマ	やや多	平年並

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(4月22日から5月21日までの天候見通し)

平成29年4月20日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

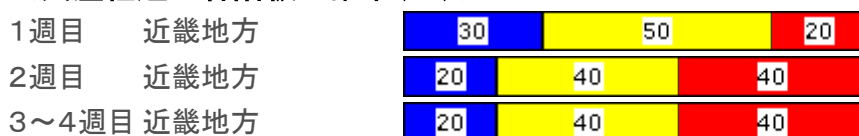
週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: 低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 4月22日(土)～ 5月21日(日)
- 1週目 : 4月22日(土)～ 4月28日(金)
- 2週目 : 4月29日(土)～ 5月 5日(金)
- 3～4週目 : 5月 6日(土)～ 5月19日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【苗立枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 育苗期は、昼夜の温度較差が大きいことから、ムレ苗になりやすく、発病を助長する可能性があるため、適切な換気に努める必要がある。
- イ 1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

2 【ばか苗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 現在のところ発生は未確認であるが、1か月予報によると、気温は平年並または高く、平年並に発病すると予想される。

3 【ヒメトビウンカ】（縞葉枯病）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 昨年秋期のヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒率は、一部地域で高かったものの平均で0.9%であり、昨年（2015年）の1.8%と比べて低かった。また、3月に実施した畦畔における越冬虫世代の調査では、密度は4.8頭/0.25㎡であり、昨年と比べてやや少ない状態であった。
- イ しかし、4月に実施したムギ圃場における密度調査では、畦畔からの飛び込みと考えられる越冬世代成虫の発生が確認されている。密度は2.0頭/10回振でほぼ平年並であったが、比較的早い時期から成虫の発生が確認されていることから、ムギでの増殖が進んでいると考えられる。
- ウ 1か月予報によると、気温はやや高く、降水量はやや少ないと予想されており、今後越冬世代成虫のムギへの飛び込みが増えるとともに、ムギにおける次世代虫（第1世代虫*）の増殖が順調に進むと考えられる。
- *水田に飛来し、縞葉枯病を引き起こす。
- (3) 防除上の留意点
- ア 不耕起田等イネ科雑草が繁茂しているほ場は、ヒメトビウンカの越冬場所になっており、すき込みを早めに実施すること。
- イ ムギで増殖したヒメトビウンカは、その後水田に移動してイネ縞葉枯病を引き起こす原因になる。昨年度イネ縞葉枯病が多発した地域では、不耕起田等のヒメトビウンカ越冬場所、第1世代の増殖場所となるムギでの対策を実施することが望ましい。

ムギ

1 【赤さび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 現時点では発生を確認していないが、1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

2 【赤かび病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア シロガネコムギの出穂期は平年より2日早く（加西市、農業技術センター）、1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

イ 今後の降雨により、病勢が進展すると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 防除は、品種や播種毎に出穂及び開花状況を把握し、開花期始め～開花期盛期に薬剤散布を徹底する。

なお、開花予測については

http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

を参考とする。

イ 薬剤については、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 予察ほ場における調査では、わずかではあるが発生を確認している。

イ 今後、気温の上昇に伴い、発生量が増加すると考えられる。

春キャベツ

1 【黒腐病】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では発生を認めなかった。1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後の発生が予想される。

2 【菌核病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では平年並の発生が認められ、1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

3 【モンシロチョウ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア ほ場周辺で成虫の飛翔が観察されており、今後、幼虫の発生が予想される。

4 【コナガ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では発生はみられていないが、加西市の予察灯で成虫の発生が確認されている。今後、幼虫の発生が予想される。

5 【ヨトウガ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップではまだ成虫の発生は認められていないが、今後の気温の上昇に伴い発生が予想される。

6 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では発生は認められていないが、今後の気温の上昇に伴い発生が予想される。

春レタス

1 【菌核病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では平年並の発生が認められ、1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

2 【灰色かび病】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では、発生は認められなかったが、1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後の発生が予想される。

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では発生は認められていないが、今後の気温の上昇に伴い発生が予想される。

タマネギ

1 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の淡路地域における現地調査で、発生が確認された。発病株は全て越冬罹病株で、二次感染は認められなかった。

イ 2月8日付「平成28年度発生予察注意報第1号」及び3月15日付「平成28年度発生予察注意報第2号」を発表し、防除対策が的確に実施されたこともあり、4月中旬の発病は、昨年の1/100に抑えられた。

ウ 1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後も感染リスクはあると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

ア 薬剤については、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の淡路地域における現地調査で、わずかに発生が確認された。

イ 1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

3 【灰色腐敗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の淡路地域における現地調査で発生が確認された。

イ 1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

4 【ネギアザミウマ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の淡路地域における予察ほ調査では、圃場間差はあるものの、わずかに発

生が確認されている。今後、気温の上昇に伴い、発生が増加すると考えられる。

イチゴ

1 【うどんこ病】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査において、わずかではあるが発生を認めた。1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想されて、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では、圃場間差は大きいものの平年並の発生が認められた。
イ 1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

3 【炭疽病】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや少**
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査においては、本病の発生を認めなかったが、1か月予報によると、気温は平年並または高く、降水量は少ないまたは平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後の発生が予想される。

4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠

4月中旬の現地調査では発生圃場率は25%で、今後の気温の上昇が発生を助長すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

5 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠

4月中旬の現地調査では発生圃場率は50%で、今後の気温の上昇が発生を助長すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

6 【アザミウマ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

4月中旬の現地調査では発生はみられていないが、農業技術センター場内（加西市）において発生が認められている。今後の気温の上昇に伴い発生拡大と密度増加が予想される。

(3) 防除上の留意点

薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)